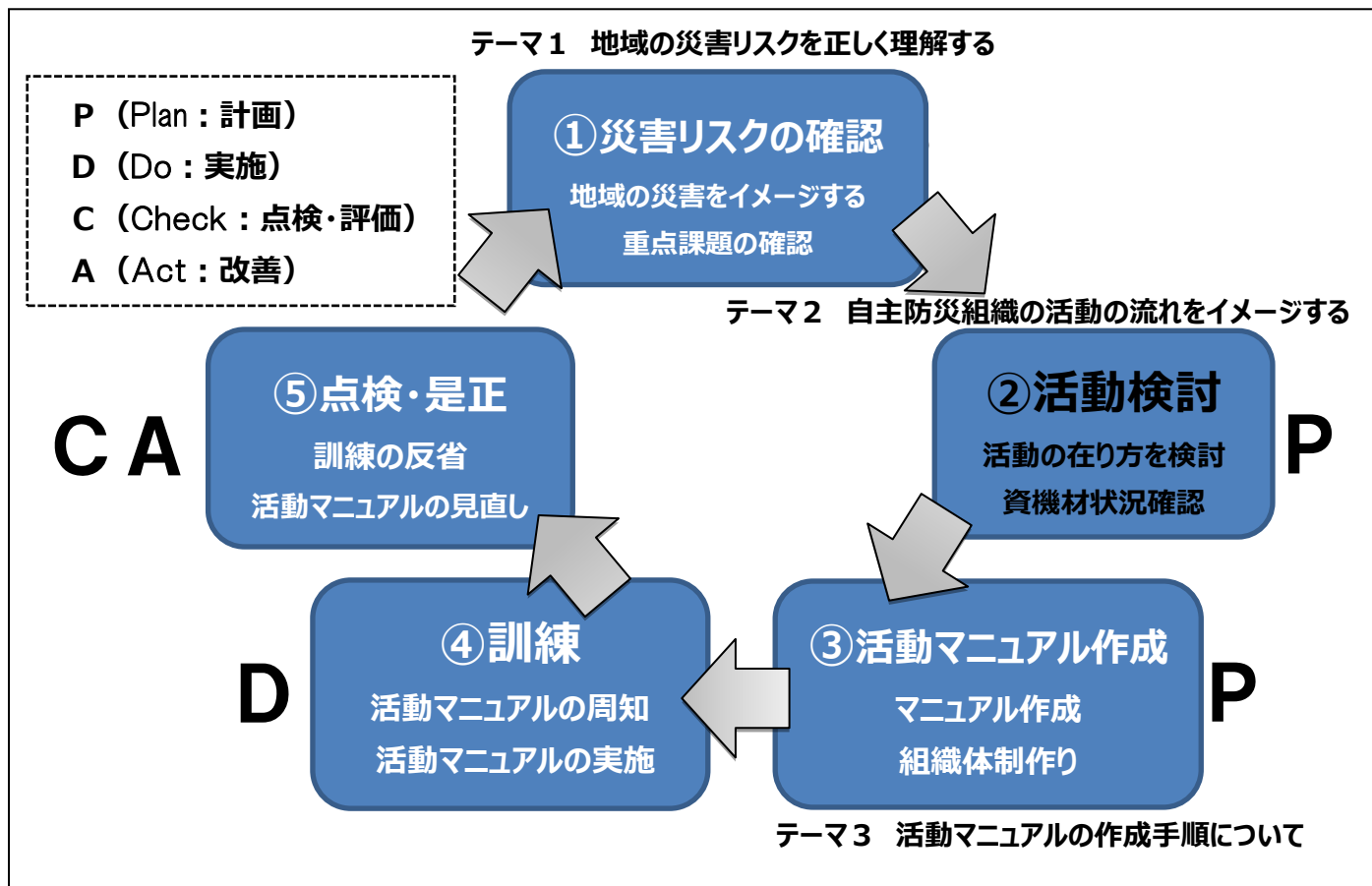


活動マニュアル作成後の活用方法

P D C Aサイクル ～気づきから実行へ～



《活動マニュアル作成プロセスとP D C Aサイクルによる継続的活動》

地域防災力を向上させるためには、①具体的な目的に対し、②具体的な対処方法を考え、③具体的な活動ルール（活動マニュアル）を作り、④訓練を通し実践し、⑤反省点を活動ルール等の是正に反映するという活動サイクルを繰り返して継続的に改善することが効果的です。

《自主防災組織活動マニュアル作成により期待できるメリット》

- ① 具体的な災害のイメージ、重要課題に気づくことで、防災活動への動機づけ、意識高揚が図れる。
- ② 地図上で地域の防災情報(避難所、広域避難場所、消火栓、街頭消火器、防災倉庫等)を確認し、防災活動の動線をイメージすることで、防災マップの素案が作成できる。同時に地域の地図上で具体的な活動内容を検討することで、必要な防災資機材の洗い出しができる（防災資機材の購入を計画的に進められる）
- ③ 地域の地図上で具体的な活動の在り方を検討することで、現実的かつ実践的な計画を作成できる。
- ④ 活動マニュアルをもとに、現実に即した実践的な訓練計画を作成することができる。
- ⑤ 活動マニュアルに基づく訓練を実行することで、活動マニュアルの内容を検証し、より精度の高いマニュアルにすることができる。

活動マニュアルを基に実践的・現実的な訓練を企画しましょう！

企画手順

- | | |
|----------|---|
| 訓練 STEP1 | 訓練で検証したい活動内容を決める |
| 訓練 STEP2 | マニュアルに沿って、行動手順を書き出し『訓練実施要領』を作成する |
| 訓練 STEP3 | 訓練の流れを参加者に説明して、マニュアルの行動手順を理解してもらう |
| 訓練 STEP4 | 訓練を実施して、反省会を開催（訓練は失敗することが大事、振り返ることはもっと大事） |
| 訓練 STEP5 | 訓練の反省をもとに、マニュアルを見直す |
| 訓練 STEP6 | 訓練が終わったら、『防災だより』など回覧・広報誌で地域に防災活動を発信し PR しましょう |

訓練 STEP1 訓練で検証したい活動内容を決める

マニュアルの内容を基に、企画する訓練の主眼とする項目を考える。

- ・安否確認訓練
- ・応急活動（消火・救助・搬送）訓練 + 活動拠点運営訓練
- ・避難訓練（一時避難場所→広域避難場所→避難所）
- ・発災から避難完了までの一連の流れの訓練なのか等
- ・想定する災害リスクが「火災」なのか「津波」なのか

訓練 STEP2 マニュアルに沿って、行動手順を書き出し『訓練実施要領』を作成する

マニュアルの中にある活動の手順を訓練の中で確認できるように、時系列の流れに沿って項目を洗い出す。

活動内容は、可能な限り**実践的で現実的なリアリティーのある訓練**であることが望ましいです。

そのためには、時間を図りながら、一連の流れを通して試みるのが重要です。

地域によっては、発災直後の「①身の安全の確保」→「②安否確認」→「③消火器訓練(初期消火)」→「④移動式ホース格納箱(延焼阻止活動)」→「⑤広域避難場所へ避難」の火災をテーマとした一連の行動を1つのシナリオとして実施している自治会もあります。各地域にあった活動の内容で、何に備えるか明確な目標を持って取り組んでみてください。

訓練 STEP3 訓練の流れを参加者に説明して、マニュアルの行動手順を理解してもらう

訓練参加者に訓練の内容を理解してもらうことで、訓練をととして「活動マニュアル」の行動手順を知ってもらう。

また、地域の特性や住んでいる場所から考えられる死のリスクを理解して、活動の必要性を動機づけとして理解した上で訓練をすることも効果的です。地域が、どのリスクに備え、どのような活動が必要かをイメージすることも参加者に危機感を持ってもらう上で重要なのです。

訓練 STEP4 訓練を実施後、反省会を開催訓練は失敗することが大事、振り返ることはもっと大事)

訓練は、失敗を恐れ完璧にやろうとしてはダメです。失敗して、課題を見つけることが重要なのです。そのためには、訓練をやり終えたら、やりっぱなしではなく反省会を開いたり、アンケートで意見を集計して、改善点を見つけてください。『反省意見』が訓練の一番のオイシイ部分なんです！

例 反省箇所	改善方法
安否確認の情報がうまくまとめられなかった	→ 集計様式を見直す
資機材の取扱方が分からなかった	→ 資機材取扱訓練を実施
資機材の数量が足りなかった	→ 次年度、資機材の増強
避難経路が通ってみたら危険個所があった	→ 避難経路の見直し
情報伝達に時間がかかった	→ 伝達方法見直し or トランシーバー等購入
移動式ホース格納箱が、近辺になかった	→ 移動式ホース格納箱の設置箇所を増やす

訓練 STEP5 訓練の反省をもとに、マニュアルを見直す

訓練の反省点を抽出したら、活動マニュアルと照らし合わせて、活動マニュアルを『評価』しましょう。

活動のルールを修正したり、必要な資機材を見直したり、より具体的で効率的な現実に即したマニュアルに年々昇華していきましょう。マニュアルは一度作ってお終いではありません。

最初に作ったマニュアルが理想なマニュアルであるとも限りません。訓練を通して実際の活動と照らし合わせて、見直し、バージョンアップしていきましょう。

訓練 STEP6 訓練が終わったら、回覧・広報誌で地域に防災活動を発信し、PR しましょう

訓練後の反省会を終えたら、訓練結果をまとめて地域の防災の取り組みを『防災だより』のような回覧で、参加している人だけでなく、参加していない人達にも周知します。

防災の情報をできるだけ積極的に発信して、自分の住んでいる地域は防災活動に一生懸命取り組んでいるという姿を地域全体に伝えることが、仲間や参加者を増やし、少しずつ防災活動を広げる大事な取り組みとなります。

マニュアルを活用した訓練のメリット

活動の流れに沿った一連の動きを経験する

資機材取扱訓練等の単発的な訓練ではなく、発災直後から避難するまでの一連の流れを確認しながら訓練できる。練習で経験しないことは、本番で実践することはできません！まずは災害時に求められる行動を忠実に現実的に経験することが重要となります。

実践的な防災訓練への段階的ステップ

マニュアルに計画されている活動ルールに基づいて、訓練を実施してみましょう。

マニュアルの活動ルールに基づく訓練を実施するには、ルールの周知・浸透の度合いに応じて段階的に訓練内容のレベルを上げてみましょう。訓練の段階は、次の２段階に分かれます。

シナリオ型訓練
（基本編） 被害想定や活動内容、具体的な対処方法について事前に話し合い、取り決めておき、事前に申し合わせた活動の展開（シナリオ）に沿って実施する訓練です。

ブラインド型訓練
（応用編） 火災や負傷者の発生場所は、訓練参加者には事前には知らせず、訓練の最中に訓練参加者に対して、訓練運営者側が被害想定を与え、訓練参加者にその場の判断で臨機応変に対応させる訓練です。

シナリオ型訓練→ブラインド訓練へ段階的にステップアップしてみましょう

シナリオ型の訓練は、事前に被害想定への対応方法について、じっくり検討してから訓練で検討した事前に参加者で想定を作り、活動マニュアルに基づいた対応方法についてじっくり話し合いながら検討することができます。

訓練参加者に活動ルールが浸透していない段階では、まずは一つ一つの活動をみんなで話し合いながら決めて、活動手順の流れをシナリオとして作りルールになぞらえながら活動することが重要です。

何回かシナリオ型の訓練を実施することで、活動ルールが地域に周知・浸透されはじめたら、訓練のレベルを少し上げてブラインド型訓練に挑戦してみましょう。ブラインド型訓練では、できるだけ